

熊本市こども・若者モニターアンケート

「熊本市が『みんなが住みたいまち』
になるには？」

説明資料
(中学生以上向け)

はじめに

熊本市では、

『こどもが輝き、若者が希望を抱くまち』の実現を目指し、子育てしやすい環境づくりや、若い世代が将来も熊本で暮らしたいと思えるまちづくりを進めています。

全国的に、出生数や合計特殊出生率が減少しこどもが減っており、熊本市からも若い人の転出が増加するなど、こどもや若者の人口減少が進んでいます。

そこで、もっとこどもや若者が増えるように、熊本の魅力を高めたり、魅力を発信していくことで、みんなが住みたくなる熊本市になることを目指しています。

あなたの意見は、これからのまちづくりにとってとても大切です。

ぜひ、率直な考えを教えてください。

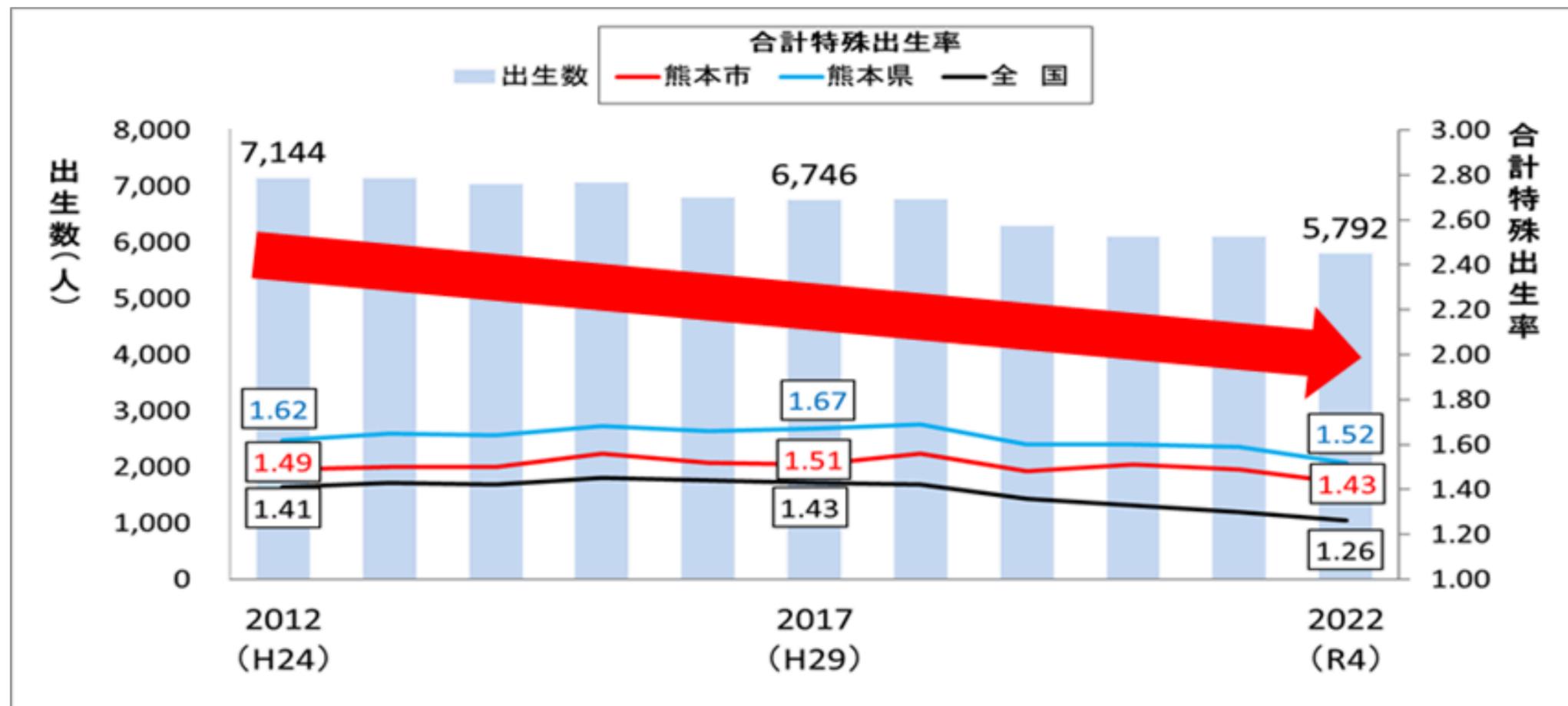
本市の現状

■出生数と合計特殊出生率

出生数については、令和4年度(2022年度)は5,792人であり、平成24年度(2012年度)の7,144人から約1,400人減少しています。

合計特殊出生率※については、令和4年度(2022年度)は1.43であり、平成24年度(2012年度)の1.49から減少傾向にあります。

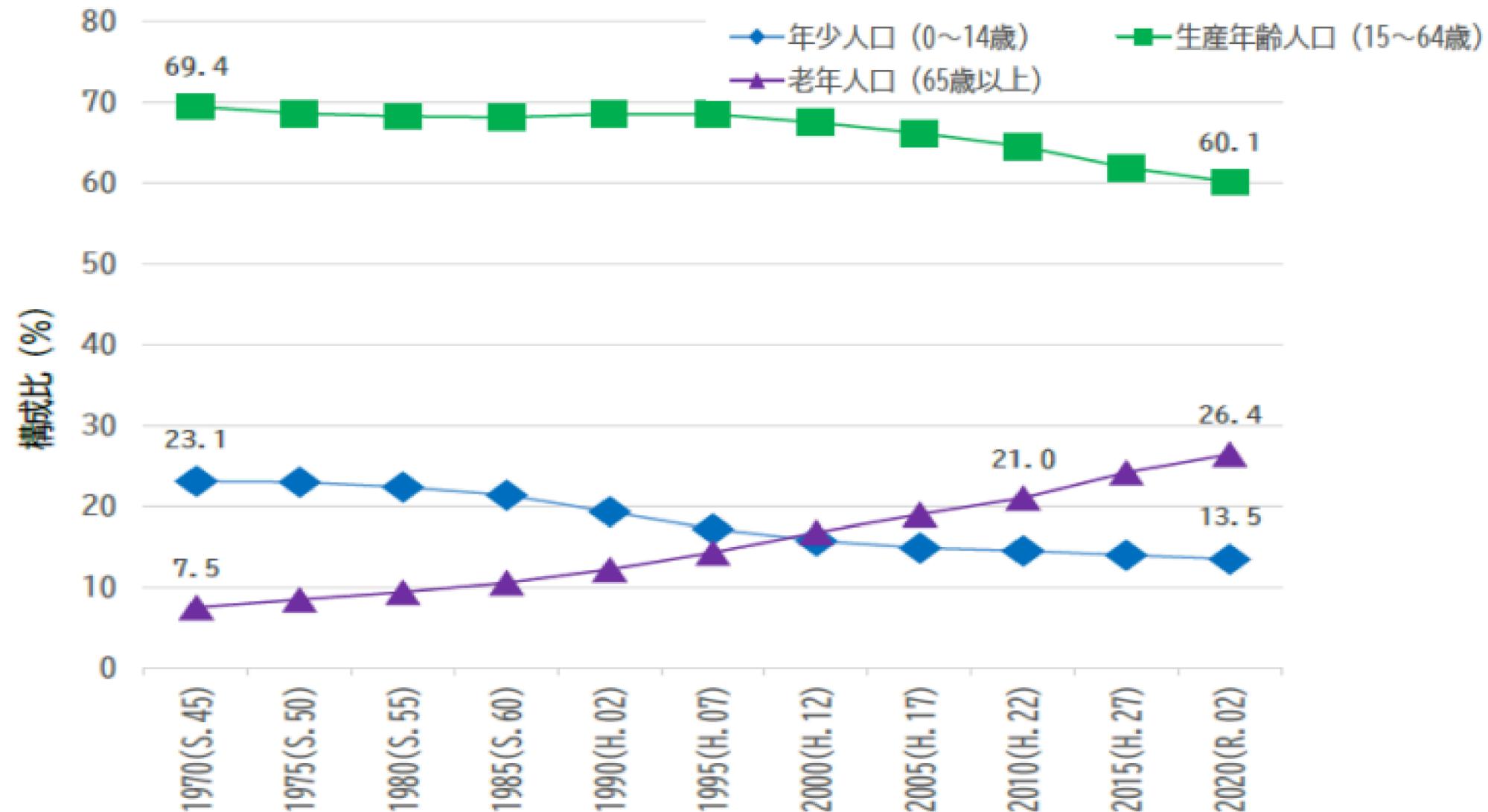
※ 合計特殊出生率…15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときのこどもの数に相当する。



本市の現状

■年齢3区分別人口の推移

年少人口(0～14歳)の割合は年々減少しており、令和2年度(2020年度)時点の全人口に占める割合は13.5%でした。



出典：熊本市人口ビジョン／令和5年度

本市の現状

■若者転入転出状況

近年は、転入超過傾向にあり、令和4年(2022年)では約1,800人の転入超過の状況にあります。年代別で見ると、男女共に0～4歳、20～24歳が転出超過となっており、女性については、25～34歳でも転出超過となっています。20～24歳の転出超過については、大学生等を対象とした意識調査の結果等から就職に伴う転出超過であると考えられます。

図1.3.1 転入・転出と社会動態^[4] (当時市域^[9])

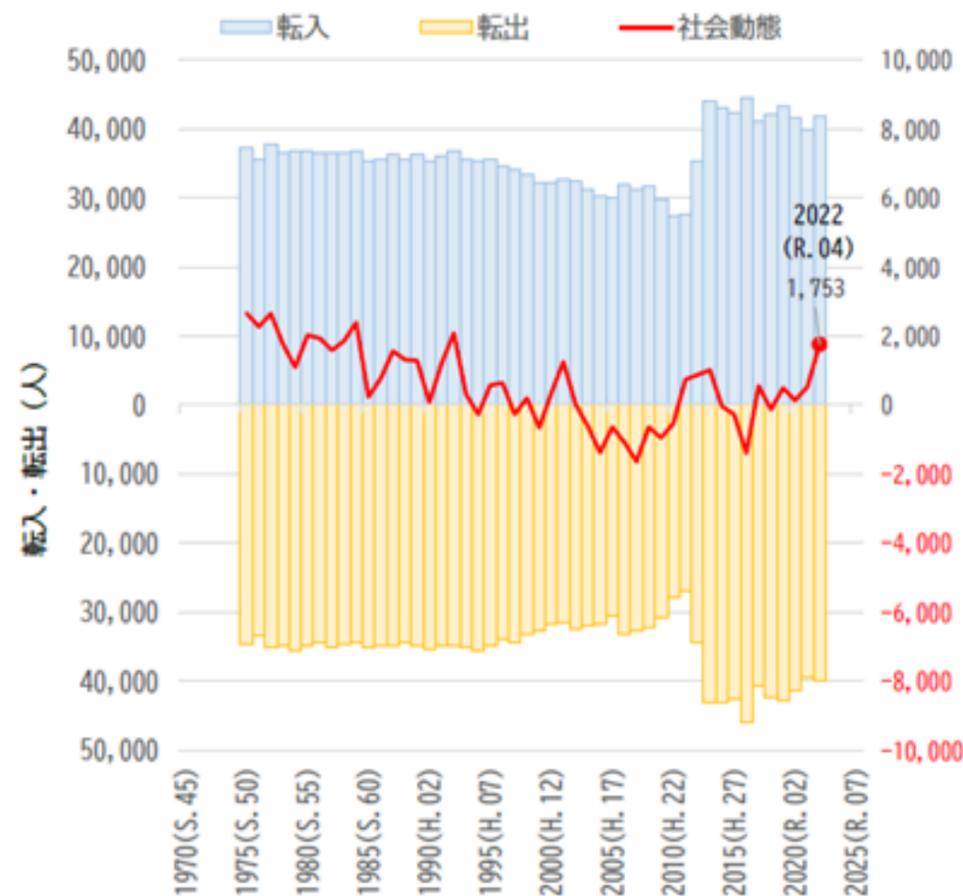
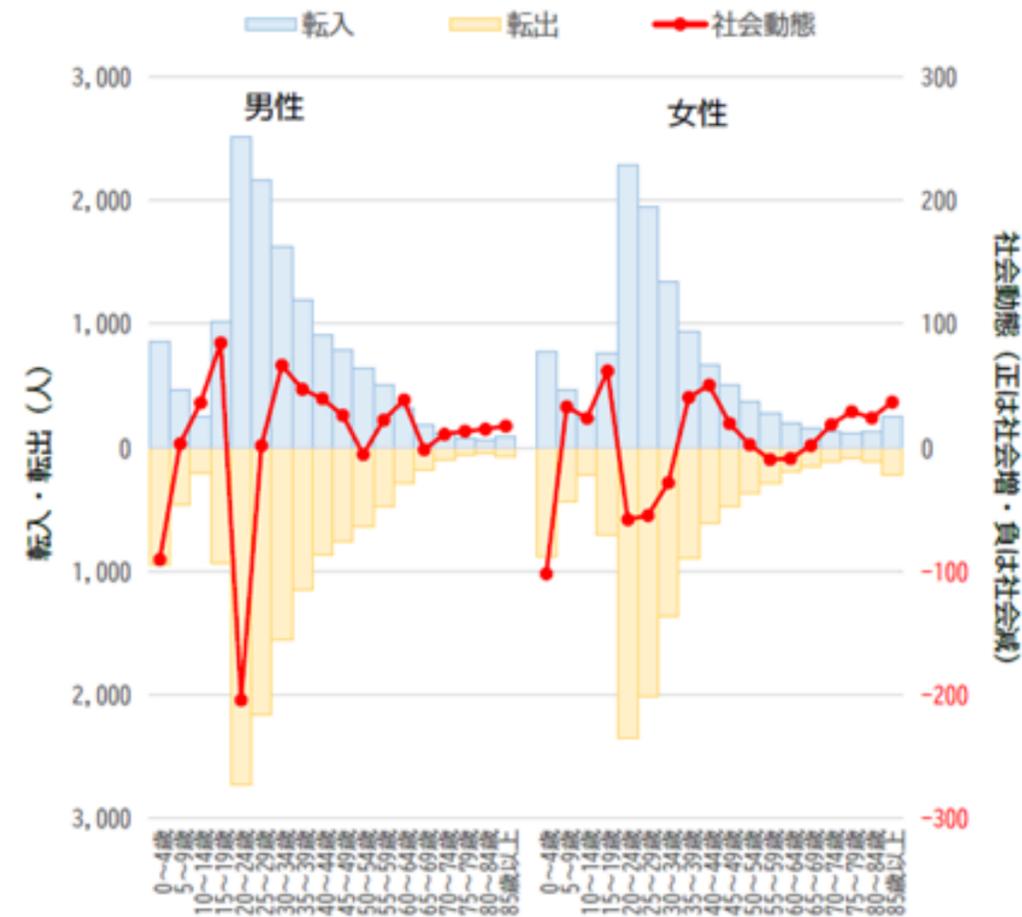


図1.3.2 男女別年代別転入転出状況



少子化が進むとどうなる？

たとえば・・・

- ・労働力人口の減少と経済の縮小
- ・社会保障制度の持続性への懸念
- ・地域社会の衰退と過疎化
- ・教育・文化の空洞化
- ・個人消費の減少と経済活動の停滞
- ・こどもの社会性や成長への影響

➡いろいろな悪影響が！

熊本市こども計画2025で目指す姿

「熊本市こども計画2025」では、このような現状の中、様々な課題を解決し、目指す姿の実現を目指します。

すべてのこどもや若者が健やかに成長し、結婚・妊娠・出産などの希望が叶い、子育てに伴う喜びを感じることができるまち。

また、こどもや若者をはじめとした多様な人々の笑顔があふれ、誰もが希望を抱いて暮らすことができるまち。

そのような、

「こどもが輝き、若者が希望を抱くまち」

の実現を目指します。

熊本市の魅力

熊本市は、このように魅力がいっぱいです！

熊本市の 7つの魅力



▼ 意外と都会で住みやすい



▼ 「蛇口をひねれば、
ミネラルウォーター」



▼ 文化も、自然も、
暮らしの一部に。



▼ とれたての恵みと暮らす



▼ 充実した医療体制



▼ こどもの未来を広げるまち



▼ 働き方の選択肢が豊富

皆さんにお聞きしたいこと

👉 どんなまちになったら、こどもや若者の皆さんが熊本市に住み続ける、将来戻ってくるには、また、市外の人が熊本市に移り住んでくれるでしょう？

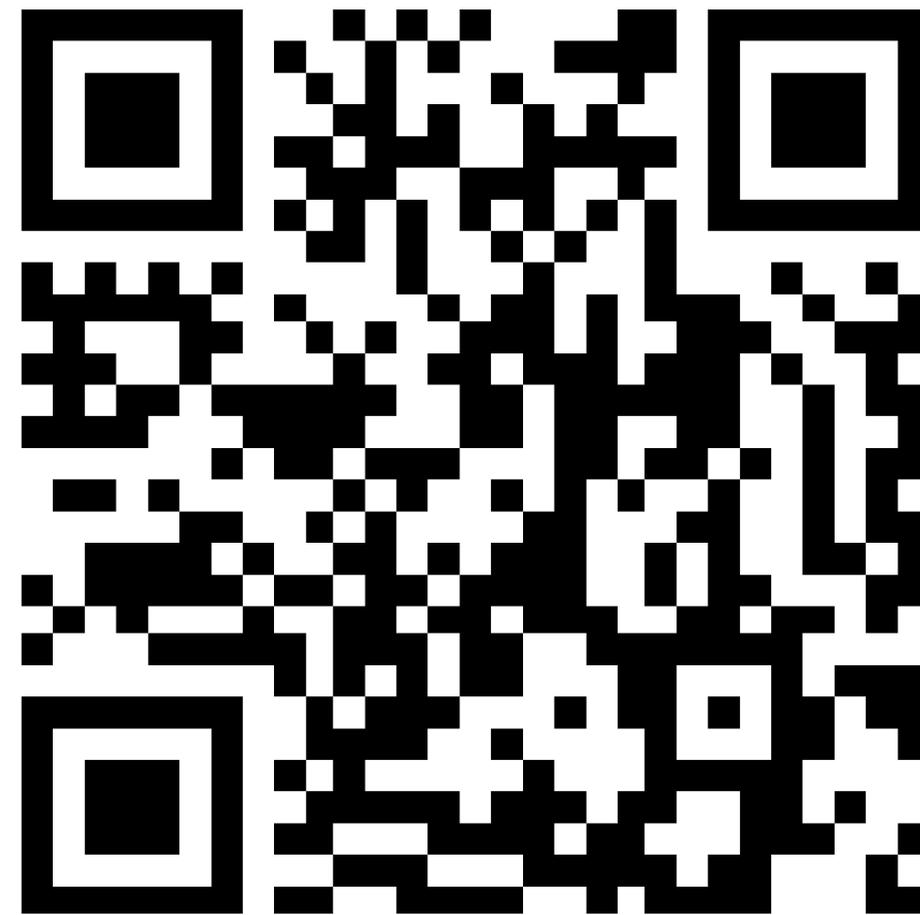
👉 熊本市や住んでいる場所のいいところを思い浮かべながら、色々な意見をだしてみてください。

参考：熊本市公式移住情報サイト

↑ ↑ アンケートの回答前にチェックしてみてね！

アンケート 回答フォーム

右のQRコードがアドレ
スから回答してね！



<https://logoform.jp/f/5jY2g>